

## コロラド州：小麦作柄と気象状況

2005年5月31日

### 2005年5月29日現在：

5月29日に終わる週の前半は、高温・乾燥状態であったが、週の終りに冷たい空気が流れ込み気温は平年を下回り、東部平原に降雨をもたらした。Topsoil 及び Subsoil の水分は、週末に降水があったが全体として減少した。1週間の州平均農作業稼働日数は6.2日（前週：6.6日）であった。

冬小麦の75%が出穂した。昨年 of 生育ペースより遅いが略5年平均並の進捗であった。冬小麦の作柄は、高温の為前週より更に評価が落ちた。この次期の高温・乾燥は、小麦の生殖成長に悪い影響を及ぼし、単収の低下につながる。

5月1日付け USDA の冬小麦生産量予想では、単位収量は昨年の約3割増の35.0bu/ac (2004年産実績：27.0bu/ac)、作付面積は2,450,000エーカーと予想され、生産量は85,750,000Buであった。詳細は別表の通り。

### 土壌水分：5月29日現在

	Very Short	Short	Adequate	Surplus
Topsoil (%)	11	27	56	6
Subsoil (%)	18	42	38	2

### 生育状況：5月29日現在

	This Week	Last Year	5-Yr Ave.
Headed (%)	75	93	76

### 作柄状況：5月29日現在

	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent
This week (%)	5	15	33	34	13
Last week (%)	4	12	30	36	18

Source : Colorado Agricultural Statistics Service

### 5月1日付け USDA 生産量予想 (冬小麦)

Crop State	Harvested Area		Yield		Production		
	1,000 acres		bushels/acre		1,000 bushels		
	2004	2005	2004	2005	2003	2004	2005
NE	1,700	2,450	27.0	35.0	77,000	45,950	85,750
USA	34,462	35,069	43.5	45.4	1,716,721	1,499,434	1,590,862

当該作柄レポートに関するご質問等は下記までにお問い合わせ致します。

小川正晃 : Email [ogawa.max@omicnet.com](mailto:ogawa.max@omicnet.com)